

第2回 五條市デジタル交通サービス推進協議会 議事録

1. 会議議事

- 日時：令和5年3月13日～20日
- 場所：書面による開催

2. 議事録

(1) 実証実験実施計画（案）について

- ・ 全会一致で令和5年度の取組み（案）が承認された。

実証実験実施計画の策定に向けたご意見

■ 喜多会長（神戸大学名誉教授）

- ・ 特段気づいた点はなく、本内容で進めていただけて結構です。
- ・ ご参考までに、自動運転車両・パーソナルビークルの試走・試乗に際し、ビデオなど走行記録をとっておくと後々役立つ可能性があるため今後検討ください。

→（事務局）

ご意見を踏まえ、試乗会企画案において走行記録の必要性や記録の手法について検討します。

■ 中野委員（東京大学教授）

- ・ モビリティの確保に対する切実な要望があることが実感できた。
短期的にコミュニティバスや乗合タクシーなどにより、何らかの移動手段の確保を行うことは良いことだと思う。
- ・ カート車両による自動運転以外に、パーソナルビークルも検討することは良いことだと思う。
- ・ 試乗会の企画案にも賛同する。
- ・ カート車両による自動運転技術は、ゴルフ場で幅広く用いられているものである。住民の理解を得てルール作り（カート車両走行が優先など）を行い、できるだけ自動運転を行いやすい道路・交通環境を作り、高価なセンサーや、高度な技術を使わなくても、自動運転サービスを提供することができることを示してほしい。

→（事務局）

承認いただいた試乗会を通じ、当該地区での今後の取組方針等について、市と共同して協議会で検討・協議していきたいと思えます。

■ 油谷委員（奈良県タクシー協会五條支部）

- ・ R4.11.21の協議会での問題点を実体験できる試乗会であってほしい。
- ・ 勾配体験、四季、気候に対しての対策装備、備品案内等

- ・ 荷物の積みおろし又いくら積めるのか
- ・ 実際の永谷走行ルートでの乗車時間の体験（実際の走行速度）
- ・ 轍ぼれの通過体験

→（事務局）

第1回協議会での協議結果を踏まえ、安全性等の観点から、現時点では永谷地区ルートでの実験走行は困難であると考え、予定しておりません。そのため、まずは安全な場所で、地域の方々に自動運転カート車両やパーソナルビークルに試乗いただき、当該移動サービスのニーズを確認したいと考えています。

■ 畠山委員（永谷自治会長）

- ・ 山間地域での高齢者対策として、デジタル技術を活用した交通サービスの導入を検討及び検証実験について、モデル地区にさせていただいた事にまず御礼申し上げます。意見・要望として列記しますがよろしく願います。
- ・ 案件の試乗会の企画は良い提案であるが、実質自動車等運転経験のない80歳前後の方が自分自身で運転して市道を走行できるかどうか？永谷～富貴線の通過車両やカーブでの出会、集会場から上はガードレールもなく危険性がたかい。
- ・ 議事録はそれぞれの方のご意見がわかりやすくまとめられておりますが、専門用語となる難しい面もあります。「Level4以上は許可制」「レベル3の遠隔操作」「3Dマップ」
- ・ デジタル技術を活用したカートの自動運転について
 - ① 自動運転はその場にとまるか前進しかない、他の通行車両への制限が必要
 - ② 高年齢の方が誰もいない車両に乗る不安感の発生
 - ③ モニター等による監視があるのかどうか？
 - ④ 積雪、大雨での運行は可能か？
 - ⑤ このデジタル交通が可能になれば、この過疎化となっている集落にも光が差し込んだ気分となると思う、是非実現してほしい。

しかし、この事業にどれだけの投資及び維持経費が必要かと考えると、短期的取組事項にあるコミュニティバス運行も検討課題である。
- ・ 各文章の中に横文字が多く出てくるので、私には難読となっている。特にパーソナルビークルとパーソナルモビリティの違い。

→（事務局）

ご指摘の通り、第1回協議会での協議結果を踏まえ、安全性等の観点から、現時点では永谷地区ルートでの実験走行は困難であると考え、予定しておりません。そのため、まずは安全な場所で、地域の方々に自動運転カート車両やパーソナルビークルに試乗いただき、当該移動サービスのニーズを確認したいと考えています。また、協議会資料や議事録等については、今後、より分かりやすい資料を作成するよう努めて参ります。

■ 吉本委員（永谷自治会 利用者代表）

- ・ このことについては、色々と大変な問題が出て来て俄に行かないと思う。そこで手取り早いことは他地区を走っているコミュニティバスを利用して頂いてはと思う。デジタル方式についてはまだまだ時間がかかると思う。試乗会についてももう少し早く出来ないものか。自分も時間に制限があるので一日でも早い実現を要します。

→（事務局）

短期的な取組として、まずはコミュニティバスや乗合タクシーなどによる地域の移動手段の確保についても、市において検討を進めることとしています。また、試乗会については、委託業務の契約締結後、冬季に入る前に、できるだけ早く実施できるよう努めます。

■ 黒松オブザーバー（国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所 管理第二課長）

- ・ 地域の意見を踏まえ、予算規模や住民のニーズ、利用意向等にあった移動手段を選ぶ必要があると考える。

→（事務局）

試乗会参加者へのアンケート調査の結果等を踏まえ、地元住民の意向を十分汲み取った上で、次年度に向け、地域の課題解決を図るための方策を検討します。

以上